

はじめに 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、「第7次大口町総合計画」の中間見直しをするにあたり、多くの町民に町政等の満足度や重要度、分野ごとの町民生活の実態や意向、将来のまちづくりの方向性などについて把握することによって、「第7次大口町総合計画」の達成状況を評価するとともに、町民の意向を十分に反映した見直しをする上での基礎資料を得ることを目的に実施しました。

なお、調査票の設計にあたっては、平成27年度に実施したアンケートや国や県が実施したアンケート結果との比較分析ができるよう配慮に努めました。

2. 調査対象者

令和2年4月末時点において大口町内に住民登録している20歳以上の町民を対象に、無作為に3,000人を抽出しました。

3. 調査実施方法

郵送で配布し、郵送で回収しました。

4. 調査実施期間

令和2年5月1日（金）～令和2年5月18日（火）

※締め切り後に回収できたものも極力結果に反映した。

5. 調査票の回収状況

表0-1 回収状況

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
3,000	1,955	1,953	65.1%

6. 標本誤差の範囲

標本誤差の範囲は、結果との比率の関係から以下の式であらわすことができます。

$$\sigma = k \sqrt{\frac{M-n}{M-1} \cdot \frac{p(1-p)}{n}}$$

M : 母集団
 n : 有効回収数
 p : 結果の比率
 k : 信頼度による定数
 σ : 標本誤差

ここで信頼度を95%でとると、定数kは1.96となるので、これをもとに誤差を算定すると表0-2になります。

表0-2 標本誤差の範囲 (±%)

P	10%・90%	20%・80%	30%・70%	40%・60%	50%
標本誤差	±1.28	±1.77	±1.95	±2.08	±2.13

7. グラフの見方に関する注意事項

- ・グラフは、帯グラフ、横棒グラフ、ダンゴグラフ、折れ線グラフ、散布図の5種類を必要に応じて使い分けています。例えば、クロス集計の場合、表頭が単数回答 (S A) の時は帯グラフとし、複数回答 (M A) の時は、ダンゴグラフとしています。該当サンプル数については、帯グラフの場合は図中右に、ダンゴグラフの場合は表側の横の () 内に表示しました。
- ・本文中の割合の合計は、各項目を合計した後、小数点以下第2位を四捨五入した数値となっています。また、算出した評点については、小数点第3位で四捨五入しています。
- ・クロス集計の表側における「回答なし」は省略してあるので、表側の各項目のサンプル数の合計と全体のサンプル数は一致していません。
- ・図中の構成比 (%) は帯グラフ、ダンゴグラフとも小数点以下第2位を四捨五入してあるため、帯グラフの場合でも構成比の合計は必ずしも 100.0%にはなりません。
- ・複数回答 (ダンゴグラフ) の場合、割合 (%) の合計は、100.0%を超えます。

8. 調査実施方法

居住地域別のクロス集計は、3つの地域自治組織の区分で行いました。

区分	地区
南地域自治組織	秋田、豊田、大屋敷
北地域自治組織	外坪、河北、上小口、中小口、下小口
中地域自治組織	余野、垣田、さつきヶ丘